

読者の皆さまへ

たゆみなく変革を推し進め、
変わりゆく社会に
価値を提供し続けられる
真のグローバル企業を
目指します。

取締役会長

大宮英明



1880's

1884年に官営の長崎造船所を借り受けて造船事業に進出し、当社の歴史が始まりました。その後、鉄製汽船や大型客船において日本初となる建造実績を残しました。



1910's

神戸造船所で日本初の量産乗用車「三菱A型1号」を製作したほか、蒸気機関車や航空機などの輸送機や内燃機関の開発を手がけました。

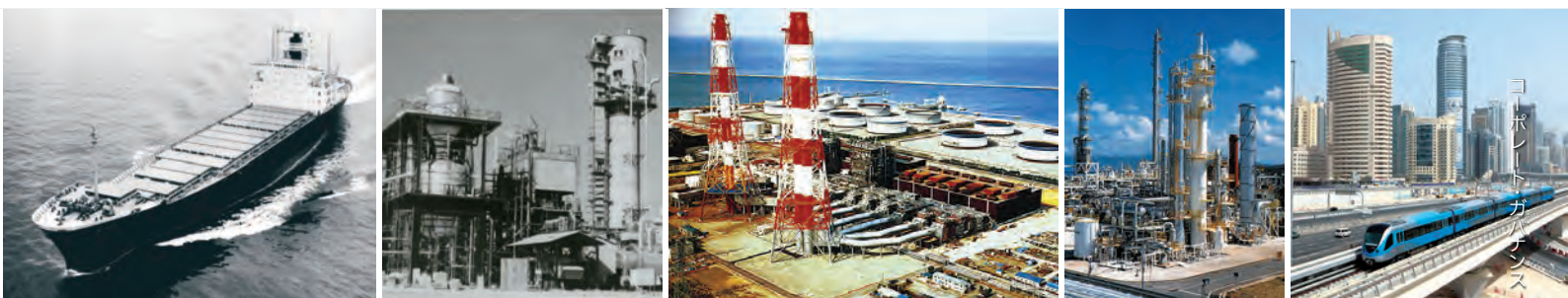


1930's

日本は戦争の時代に突入し、世界を驚かせた名戦闘機である零式艦上戦闘機（通称「ゼロ戦」）や戦艦「武蔵」など、当社の先端技術は軍需製品にも利用されていきました。

三菱重工グループは創立以来、社会の進歩とともに、さまざまな技術や製品を生み出し、次の世代に受け継ぐことで、世の中の多様なニーズに応えてきました。その一方で、当社グループを取り巻く事業環境は次第に複雑さを増し、社会の変化もスピードを増しています。こうした環境の変化を背景に、近年、当社グループでは組織体制の見直しやコーポレート・ガバナンス改革など、さまざまな経営改革を進めてまいりました。そして、歴史的経緯の中で育んできた事業や製品、人材といった当社グループ独自の多様性を、より時代のニーズに合致した多様性へと戦略的に再構成している途上にあります。

当社グループがこれからも社会に価値を提供し続ける存在であるために、グループ一丸となってたゆみなく改革を推し進めるとともに、独自性のある真のグローバル企業への進化を目指します。



1950's

終戦後の1950年にGHQの財閥解体方針によって当社は3社に分割され、タンカーやスクーター、トラクター、エアコンなどの多様な製品を競い合って開発し、日本の復興に貢献しました。

1970's

1964年の3社の再統合を経て、発電プラントやモノレール、石油掘削リグなど、大規模なインフラ関連の製品を開発し、高度経済成長を支えました。

1980's

日本の高度経済成長が終わると、当社の成長は約30年、停滞が続きました。そうした中でも、世界初的大型超省エネルギー船や世界最大級コンバインド発電プラントを製造するなど、現在につながる先端技術を磨きました。

1990's

1999年にマレーシア向けCO₂回収装置を引渡すなど、技術力を活かし環境課題を解決する製品を海外でも積極的に展開しました。

2000's

統合力に強みを発揮し、台湾新幹線やドバイメトロなどの交通システムをはじめ、インフラ整備や環境保全など、地球規模の課題を解決する事業を進めてきました。